



2019年(令和元年)  
9月5日  
木曜日 夕刊

環境 4  
円・株 5  
NEWS+α 7  
社会・総合 8  
社会 9  
TV・ラジオ 5.10

朝日新聞東京本社  
〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2  
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

スター・ウォーズ スカイウォーカーの夜明け 公開記念  
STAR WARS CONCERT SERIES  
フォースの覚悟 10/13(日) 14:00 11:00  
16:00  
大スクリーンでの映画全編上映×フルオーケストラの生演奏  
東京国際フォーラム ホールA  
演奏:東京フィルハーモニー交響楽団  
主催:PRIMAX/朝日新聞社ほか  
2019 © TM/LUCASFILM LTD. ALL RIGHTS RESERVED. THX  
スター・ウォーズ シネマコンサート 検索

楽しむ music & theater  
ジャズピアニストの上原ひろみが、10年ぶりにソロアルバムを出す。テーマは「色」。白と黒の鍵盤で、カラフルな世界を紡ぎ出す。 2

素粒子  
なおも香港の対立は続く。市民社会が政治を変えるか、政治が市民社会を変えるか。  
× ×  
まるで再放送を見る感じ。ジョンソン首相も七転八倒。  
× ×  
どこから、放射性物質は漏れた。なぜ、ベントは失敗した。原発事故の調査再開へ。  
× ×  
あす、北海道ブラックアウトから1年。耐震確認とともに、停電への備え怠りなく。

# 「寺子屋」ニジエールの灯に



西アフリカのニジエールで、日本の民間団体が「寺子屋」を運営している。識字率が15%と極めて低く、学校に通えなかったり、退学してしまったりした子どもたちの勉強を支援することで、少しでも生活を良くすることが狙い。きつかけの一つは、ニジエールと日本のあまり知られていない関係だ。

西アフリカの内陸国で、七つの国に囲まれている。人口約2100万人のうち半数以上が18歳未満の子ども。国連児童基金(ユニセフ)などによると、小・中学校は義務教育だが、7〜16歳の半分以上は学校に通っていない。小学校の就学率は71%。うち中学に進む子どもは6割で、修了するのはそのうちの2割。成人の85%は読み書きができない。



ニジエールの首都ニアメーから東に約35キロのクオラテギ村は、人口が約1300人。ここに4年前、「TERAKOYA Same」ができた。運営するのは、日本からニジエールの子どもへの支援に取り組む一般社団法人コモン・ニジエール(事務局・茨城県守谷市)。「Same」は日本の支援企業の名称だ。

「30年以上日本の生活を支えてくれた国とのつながりを大切にしたい」との思いから、夫が急死した後の09年にコモン・ニジエールを設立した。名称はフランス語で「ニジエールとは？」という意味だ。

かやぶきの質素な寺子屋は、広さが12〜13畳ほど。電気や水道はない。現在は14人の子どもが、イブラヒム・ガド先生(35)からフランス語の読み書きと算数を教わっている。

寺子屋ができたきつかけは、コモン・ニジエールの現地スタッフの呼びかけに対し、村が手を挙げたことだった。「多くの子どもが学校に行っていない。将来、彼らが家族を養うためには、補習校(寺子屋)で勉強することが必要だと考えた」とハミドゥ・ヤクバ村長(59)は話す。

クオラテギ村のある地域の教育委員会によると、コモン・ニジエールが始めた寺子屋方式は成果が著しいとして、同じような補習校が周辺地域に62校でき、フランスのNGOなどが支援をしている。コモン・ニジエールも、別の村でも寺子屋を開校した。今後ニジエールの子どもたちの学びを支援していくという福田さんはこう話す。

「将来は税関の職員になりたい」と夢を語る。カリキュラムは原則2年。この4年で9〜14歳の70人が学んだ。小学校に戻ったり、中学校や職業訓練校に進んだりする子どももいる。ファティ・ハルナさん(11)は、そこで学んだ11人いる女子のうちの一人。2年勉強し、昨年に小学校

かやぶきは傷みやすく、雨期に壊れることもあるが、村人総出で毎年建て直している。「コンクリートで建てて欲しい」という声もあるが、コモン・ニジエール代表の福田英子さん(62)は「自分たちで管理・維持している、自分たちの教室という意識をもってもらうため、かやぶきにしていく」と話す。その分、先生の給料や子どもたちの教材を優先しているという。

福田さんは1970年代から90年代にかけて計7年



◎今年14人が寺子屋で学んでいる。後ろが村人が総出で作るかやぶきの教室。6月29日寺子屋で勉強する子どもたち。1月、コモン・ニジエール提供、いずれもニジエール・クオラテギ村

## 日本の民間団体が先駆け 62校に広がる

「私たちが支援は焼け石に水かもしれない。でも、1人の子どもの革命を起こせばいい」

(編集委員・大久保真紀)